

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

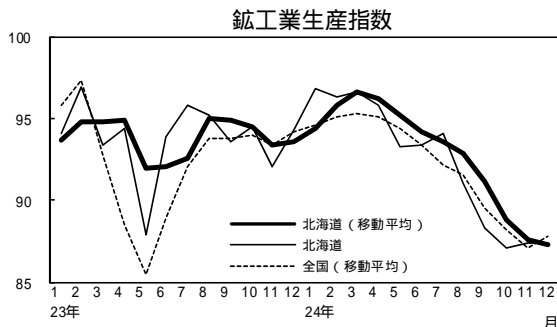
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	弱含み	下げ止まっている	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まりの兆し	
観光	持ち直し	緩やかな増加傾向	
個人消費	弱い動き	底堅く推移	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。
10～12月期は、生乳生産は、乳製品向けが増加したため、総量では969,904tと前年比1.3%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいか、さんま等が減少したため、前年比40.0%減となった。

(2) 鉱工業生産は、下げ止まりの兆しがみられる。
食料品は、残暑の影響やプロ野球の優勝セールでビールの生産が伸びたこと等から増加した。パルプ・紙は、総選挙の影響で新聞用紙の生産が伸びたこと等から増加した。鉄鋼は、尖閣諸島を巡る状況の影響等を背景に、建設機械や自動車向けの特種鋼の受注が低迷したこと等から減少した。電気機械は、従来型携帯電話やデジタル家電向けの集積回路の生産が低調だったこと等から減少した。金属製品は、中国経済の減速を背景に超硬チップの生産が低迷したこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
食料品	23.9	0.3	1.0	0.4	2.6
パルプ・紙	10.7	4.5	2.8	5.1	7.4
鉄鋼	8.6	9.0	15.3	14.3	14.5
電気機械	8.4	3.1	5.0	5.4	9.9
金属製品	8.0	1.9	8.3	8.1	10.5
鉱工業	100.0	3.3	4.2	3.1	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

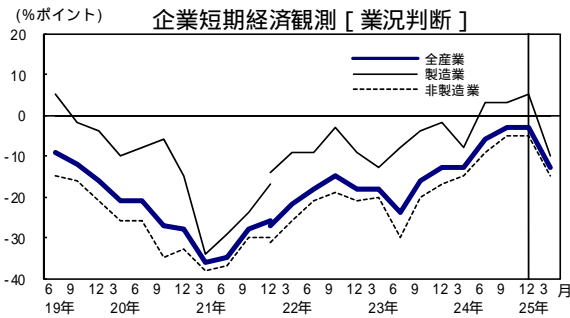
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

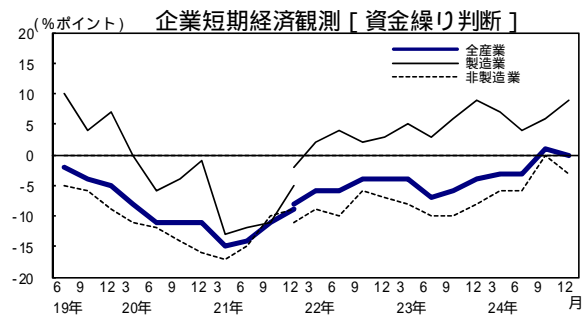
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

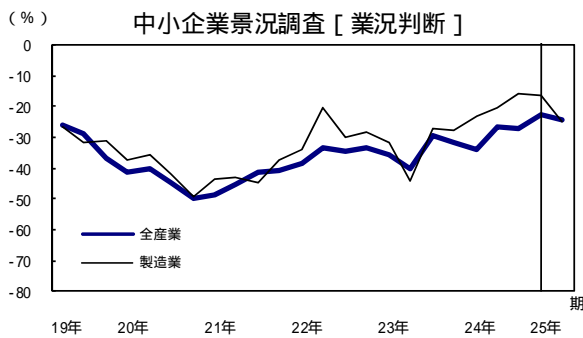
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

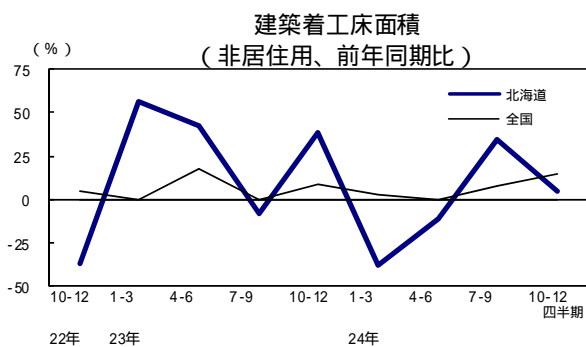
「受注量が減っており、生産調整が必要になってきている(食料品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

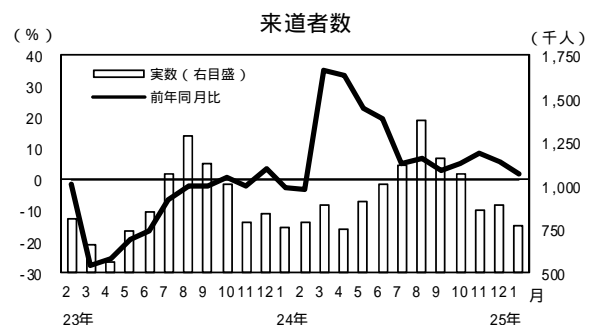
	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	12.7	15.2(0.8)
製造業	12.4	54.2(4.7)
非製造業	12.8	8.0(6.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、緩やかな増加傾向にある。

来道者数は、10月から11月にかけてプロ野球の優勝決定戦が行われたこと等から増加した。また、11月から12月にかけて札幌でアイドルグループのコンサート等が行われたこと等から増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

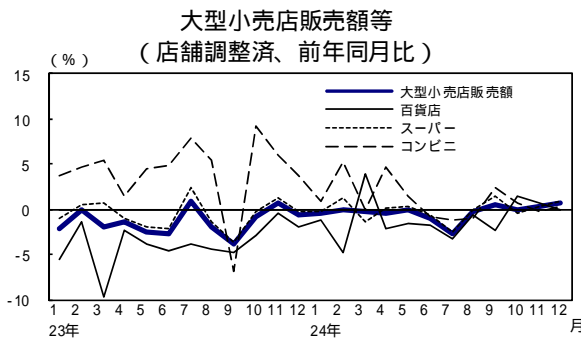
大型小売店販売額は、前年同期比で0.4%増、前期比で1.5%増となった。

百貨店は、10月は、秋物衣料に動きがみられたほか、プロ野球の優勝セールで客足が伸び婦人雑貨や食料品が好調だったこと等から前年を上回った。11月は、気温の低下で紳士服、婦人服が好調だったこと等から前年を上回った。12月は、平年を大幅に上回る大雪で来客数が減少し売上が低迷したこと等から前年を下回った。

スーパーは、大雪の影響により来客数は減少したものの、その分買いだめをする客が増加したこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「外国人観光客は台湾を中心に回復しているが、国内旅行客の回復が遅れている。北海道内からの個人客はインターネット予約を中心に着実に増加しているが、道外からのツアー客が漸減している(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	0.3	0.5	0.8	0.4
百貨店(*1)	0.5	1.8	2.2	0.6
スーパー(*1)	0.2	0.1	0.5	0.4
大型小売店(*2)	0.2	0.1	0.5	0.6
(季節調整値)(*3)	(0.7)	(0.7)	(0.7)	(1.5)
乗用車(*4)	48.7	55.8	12.7	3.4
(季節調整値)(*4)	(10.0)	(2.9)	(1.8)	(4.8)

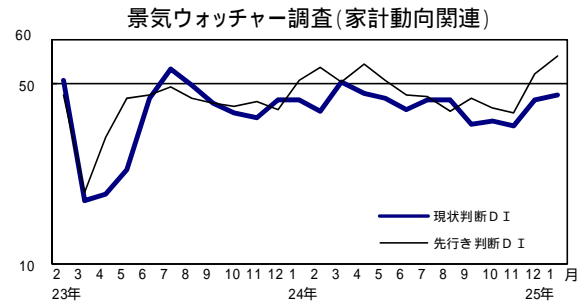
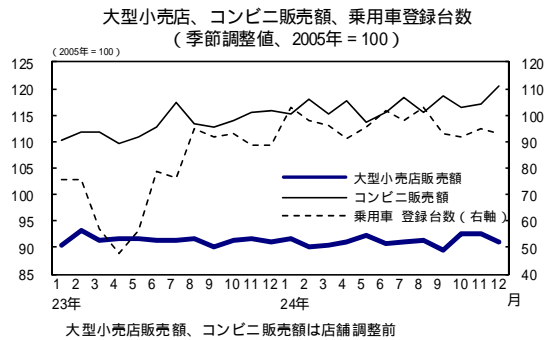
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

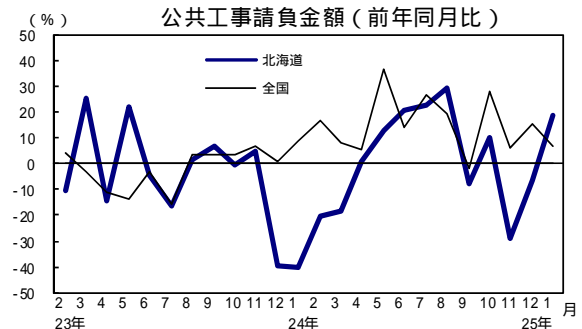
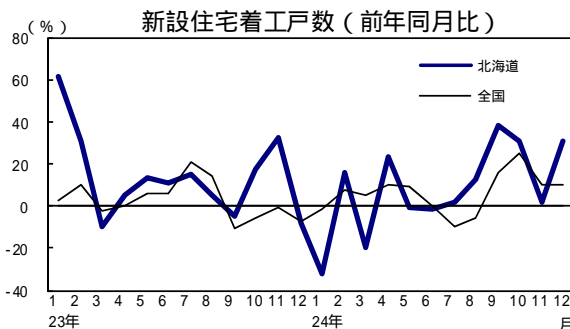
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

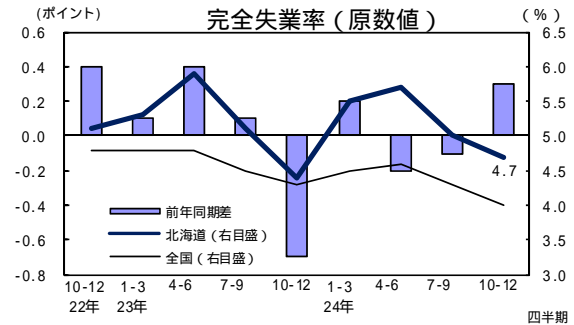
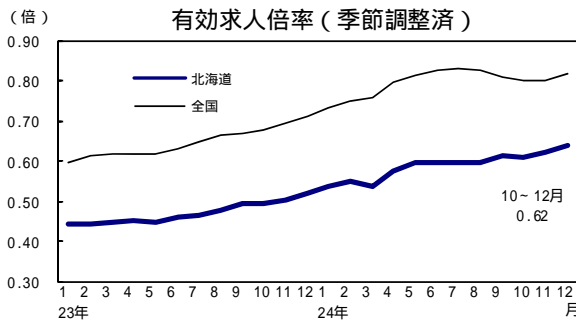


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

「12月の管内の有効求人倍率は0.59倍と前年を0.12ポイント上回っており、当管内としては高い水準にある (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

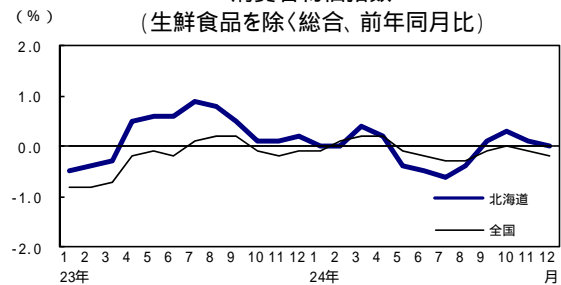
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件, 億円, %)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	135	124	108	90	28
(前年比)	8.0	0.8	3.8	11.8	15.2
負債総額	243	262	145	216	51
(前年比)	16.4	26.3	49.6	49.6	44.9

消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・12月以降、低温と積雪の影響で、夜間と深夜の来客数が減少している (コンビニ)

<先行き>

・大型補正予算による公共工事の増加で、基幹産業である建設業の業況が上向き、地域経済にも波及してくる。円安は、ガソリン価格や灯油価格の上昇を招くが、外国人観光客の増加も見込める (金融業)

景気ウォッチャー調査

(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

